



WFPメールニュース(拡大版)
2006/12/19

■食糧援助の現場から

★スマトラ沖地震・津波から2年 ~ バンダ・アチェからの現地報告 ~

2004年12月26日にインドネシア・スマトラ島沖で発生した大地震及び直後に襲った津波により、スマトラ島のアチェ地域及びシムル・ニアス両島では、20万人を超える犠牲者・行方不明者が出ました。それからほぼ2年が経ち、現地では徐々に復興が進んでいます。スマトラ島北部のバンダ・アチェで「WFP SHIPPING サービス」という事業に従事する日本人職員、前川直樹からの現地報告です。



WFPは、スマトラ島や周辺の諸島などで、震災・津波の被災者、家族、家や学校を失った子ども達などを中心に食糧支援を実施しています。一方で、国連機関の中で最大の物資輸送ネットワークを活かして、WFP SHIPPING サービスという海上輸送事業を行っています。これは、地震・津波によって陸上交通網が寸断されたアチェ地域と、海上輸送に依存せざるをえないアチェ及び北スマトラに属する被災諸島に対して人道・復興支援物資を海上輸送するというもので、2005年10月に開始されました。WFPの物資のみならず、国連諸機関やNGOの物資を運ぶ任務を担っています。

震災・津波直後の緊急援助は水、食糧、テント等の供給が中心でしたが、復興支援が進む現在は、木材、セメント、住宅建設用資材など、仮設・恒久住宅や道路・学校建設に必要な、非常に重くかつ容積の大きな物資の輸送が中心となっています。



港がなくても接岸できるのが強み

WFP SHIPPING サービスは、地震や津波によって交通が遮断されたばかりか、雨季には道がぬかるんでトラックの通行が困難になってしまう陸上輸送にかわって、ランディング・クラフトという大型船を使って海上輸送を行っています。ランディング・クラフトは、港が破壊されて使用できない地域でも、砂浜に直接接岸できるという強みを持っています。最大積載量は数百トン規模で、一度に大量の物資を迅速かつ安全に輸送することができます。これによって、津波により交通網を遮断されて孤立していた地域で住宅建設支援を行う国連機関、各国赤十字、赤新月社、NGO等に対する物資輸送能力が飛躍的に向上し、アチェの人々の生活再建に向けた歩みを力強く後押ししています。



重機を積んだランディングボート

食糧援助の現場から(続き)



津波発生直後のバンダ・アチェ

このように、日本の皆様からWFPに頂いたご支援は、災害による被災者への食糧調達・配給だけでなく、住宅等、人々の暮らしを支える生活関連物資の輸送等にも活用されています。私たちWFPは、'We Feed People.'、そしてどんな困難な場所にも'We deliver.'です。

WFP SHIPPING・サービスによって過去1年間に輸送された食糧、住宅建設、インフラ関連物資は、総重量で8万7000トン以上に上りました。今後プロジェクトが終了する2007年6月までに、さらに4万トン程の物資を輸送する見込みです。また、WFP SHIPPING・サービスがプロジェクトを終了した後も、人道支援機関及びインドネシア政府・民間機関に対して引き続き円滑な海上輸送が確保されるように、今後インドネシアの民間海運業者に対してノウハウの移転や協力を積極的に行っていく予定です。



現在のバンダ・アチェ

活動報告

★フードフォースを使った授業に大反響

以前メールニュースでお伝えしましたとおり、先月8日、富山大学人間発達科学部付属小学校で、フードフォースを活用したモデル授業が行われ、小学校6年生がゲームを楽しみながら、世界の飢餓問題や食糧支援のあり方などを学びました。授業の様子はマスコミ各社で大きく取り上げられ、テレビ局3社と新聞5社、計8社で放映・掲載されました。

子供たちからは、次のような感想が聞かれました。「僕は、死なないけど、今も一人また一人と人が死ぬことに、とても不平等という気持ちを抱いた。」「飢餓に苦しんでいる人たちの数がすごく多くてびっくりした。5秒に1人死んでいるのは悲しかったです。」「きょう、ゲームであったことが本当にあつたら大変なことだと思います。」

今回のモデル授業は、富山大学人間発達科学部の佐藤幸男教授らが作成した授業プランをもとに実施されました。授業を終え、佐藤教授は「小学校6年生の新鮮な感想や問題関心度には眼を見張るものがあった。学校教育の現場において広く普及させる必要があることを痛切に感じた。」と述べました。

WFP日本事務所では、今回の授業をモデルとし、今後、全国の学校にフードフォースを使った授業を広めていきたいと考えています。今回の授業で使ったプリント、資料、また授業計画案や授業風景を録画したビデオなどもそろっておりますので、授業にご関心のある先生や教育関係の方は、どうぞ下記までご連絡下さい。

国連WFP協会 樋口 045-221-2515



授業の様子を紹介した新聞記事

活動報告(続き)

★ 横浜国際フェスタ出展

11月18日、19日の2日間、横浜市のパシフィコ横浜展示ホールで「横浜国際フェスタ2006」が開催されました。政府機関、国際機関、NGOなどの国際協力関係団体の活動紹介ブースが並んだ他、WFPほか横浜に事務所を置く国際機関の紹介をするセミナー「国際機関のお仕事紹介」も開催されました。WFPブースでは、学校給食を中心にパネルで活動を紹介し、多くの方がブースに立ち寄って下さいました。ハンガーマップやWFPの活動について熱心に質問を下された方も多数いらっしゃいました。地元横浜の国際協力への関心が高い市民のみなさんと交流でき、有意義な2日間となりました。



お知らせ

★ 歳末ギフト募金受付中

インターネット募金で、世界の子どもたちに素敵な贈り物を届けることができます。8つの素敵なプレゼントが紹介されているギフト特設ページをご覧ください。
特設ページはこちら <http://www.jawfp.org/GoH.html>



★ オリコカードのポイントサービス「暮らスマイル」のポイント寄付がスタート!

株式会社オリココーポレーション(国連WFP協会評議員)の提供するオリコカードのポイントサービス「暮らスマイル」で貯まったポイント(単位:スマイル)を、WFPに寄付できます。寄付の単位は200スマイル(1,000円相当)です。みなさまのカードポイントが、WFPの食糧支援活動に役立てられ、飢えに苦しむ人々の未来を拓きます。オリコカードのご利用を通じた、WFPへの温かいご支援をお願いします。オリコwebサイト<http://www.orico.co.jp/>



★ 国連WFP協会 評議員一覧

2006年度、国連WFP協会の活動を支援してくださった268社(人)の評議員の皆さま、どうもありがとうございました。評議員一覧は、以下のサイトをご覧ください。

http://www.jawfp.org/council_list.html

* 2007年度より41社(人)が入会し(*を付けています)、計309社(人)となります。

★ WFP 国連世界食糧計画スーダン局長・忍足謙朗ドキュメンタリー番組出演のご案内

アフリカ大陸最大の国土を持つスーダンは、20年以上続いた南部における内戦からの復興と平和の定着、ダルフールの紛争などさまざまな問題を抱えています。そのためWFPは、現在スーダンに総予算の約3分の1を投入して、610万人を対象に食糧援助を行っています。

今回、そのWFP最大の食糧援助事業の統括責任者である忍足謙朗(おしだりけんろう)を取材したドキュメンタリー番組が放送されることになりました。スーダンの難民キャンプ、ローマのWFP本部、そして日本と、東奔西走する忍足に密着取材した力作です。ご多忙中とは存じますが、ご覧いただければ幸いです。

放送日時: 12月24日(日) 23:00~23:30 TBS系列

「情熱大陸」番組ホームページ: <http://www.mbs.jp/jounetsu/>

なお、忍足が10月に帰国したときに行った講演会「スーダンの現状と食糧援助」の内容をWFPのホームページ(アドレスは以下)から聞いていただくことができます。

<http://www.wfp.or.jp/activities/oshidari.mov>



発行: WFP日本事務所 <http://www.wfp.or.jp>
特定非営利活動法人 国連WFP協会 <http://www.jawfp.org>